

2014年 10月 1日

各 位

日本韓国市民友好を考える会 江角秀人

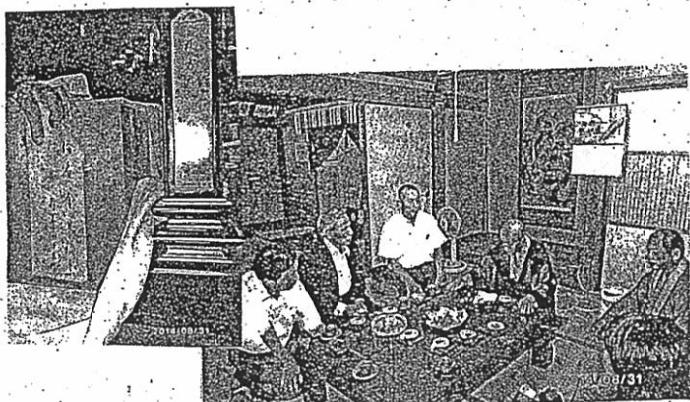
(電) 090-9733-0910

出雲市野尻町の「法王寺に眠る韓国人の遺骨」問題 及び

雲南市三刀屋町の「高窪炭鉱の鉱口等の施設調査」活動について

来年2015年は日本が明治來のアジア侵略の道を歩み敗北した1945年から70年、そして戦後20年もの長期間を要した日本韓国条約締結50年という節目の年です。

出雲市野尻町の法王寺本堂で60年余の間、一人の韓国人の遺骨が保管されています。私たちはここ2年間、この遺骨についてお寺と韓国への返還を相談してきましたが、7月末にお寺から「この遺骨を韓国の遺族の元へ返したいので会として協力をお願いする」との連絡を受けました。8月31日、私たちは韓国民団島根地方本部の李団長や同事務局長、当会員ら8人がお寺に出向き、この遺骨が同寺に預けられた経緯をお聞きし、遺骨と対面しました。韓国民団から、この遺骨について返還に協力するが韓国政府から「返還における遺骨について韓国人である旨を証明して頂くこと」が求められました。このため、会として、1953年2月に享年43歳で亡くなった韓国人 金且福さんがなぜ、この地に住み、死亡したのか?当時の金さんの生活や死亡事由など調査することにしました。



9月28日(日) 出雲市稗原町で二人の地元住民から当時、稗原町川平地区には多数の韓国人が住んでいたこと。韓国人が住んでいた2軒の住居跡を案内されました。内一人は、戦争中から稗原に住み、松根油の採取業に従事していた。その他の人々は三刀屋の高窪炭鉱閉山後に、高窪から移住して来たらしく。こうした内容が少しづつ判明した。今後も稗原や三刀屋町、木次町で追跡を行います。

『法王寺から聞き取り』1953年2月に金且福さんが死亡したので住民が葬式を執り行うため世話役の嘉藤秀次郎さんが法王寺に来て葬儀出席乞う。後日、故人妻、金玉順さんが同寺に遺骨を持参して「韓国へ帰るので迎えに来るまで遺骨を預かってほしい」と。

当面の活動日程

出雲市稗原町角谷「稗原炭鉱(中国炭鉱)」と同町川平「韓国人居住跡」の証言聞く会

①集 合 : 10月13日(月)午前9時30分:出雲市稗原町・稗原郵便局(地図)

②証言聞く会: 10月13日(月)午前9時40分~稗原(中国)炭鉱の現地証言

10月13日(月)午前10時~川平地区の韓国人居住跡現地証言

③証言者 曽田隆美さん(三刀屋町在住:高窪炭鉱及び中国炭鉱の従事体験者)

川平地区住民(予定):後日(葬儀執行者の嘉藤秀次郎の遺族の証言予定)

雲南市三刀屋町高窪地区の「島根報國炭鉱」の炭鉱口(写真)調査及び作業

①集 合 : 10月13日(月)13時30分 / 雲南市三刀屋町高窪「高窪公民館」

②「島根報國炭鉱」調査:同13日(月)13時40分~「写真」の炭鉱口調査を実施。

*集合場所は、別紙にて「稗原郵便局」及 三刀屋町高窪「島根報國炭鉱」を案内。

2015年！アジア侵略敗北70年、日韓条約締結50年を市民平和友好のステップへ
日本（人）の「アジア侵略：朝鮮植民地支配」史を顧見た市民平和友好のために

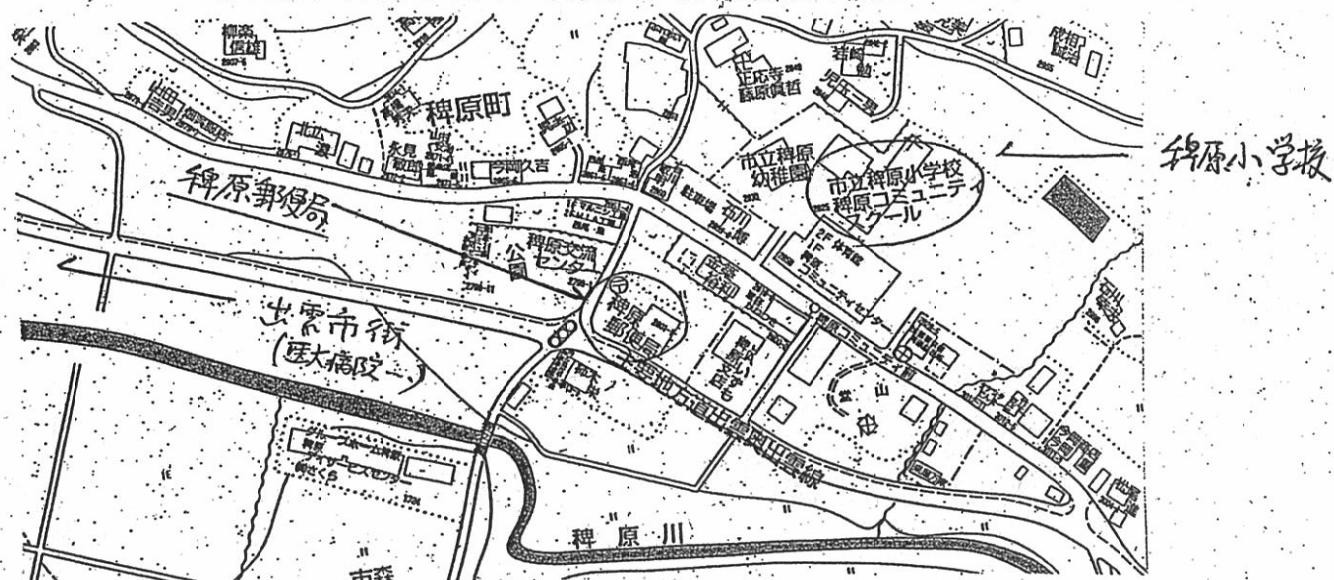
- ・日本の近代以来の「アジア侵略の責任」～朝鮮・台湾などの「植民地責任」：アジア太平洋戦争の「戦争責任」がきちんと処理されて来なかつたからこそ、政治家の靖国参拝問題や教科書の歴史記述問題、慰安婦問題、領土問題（侵略戦争の戦後処理が関係国と未整理のまま）などがいつまでも続く。そして人権蹂躪のヘイトスピーチが公然と登場。日本における基本的人権確保が全く不十分な中で、国連人権差別委員会が〔官僚や政治家の責任＝行政と各議会〕の責任を強く弾劾した！こうした意味から、今回の韓国人の遺骨に関する小さな取り組み（大田市における耳塚の保存活動など含め）は日本・韓国関係のみならず、「戦後における日本のアジア太平洋侵略戦争や植民地支配に対する責任を考え」「今後のアジアに対する市民による平和友好創り」への小さな取り組みです。

10/13(月)午前9時30分：集合場所～出雲市：稗原郵便局

出雲市稗原町地内における韓国人の遺骨に関する調査集合（下記の地図）

内 容 ①出雲市稗原町の稗原（中国）炭鉱の現地調査

②戦後、稗原町地内に韓国人が居住跡地の調査



1.0 / 13 (月) 午後 1 時 30 分： 集合場所～三刀屋町高窪：「高窪公民館」

雲南市三刀屋町の高窪（島根報国）炭鉱の調査（下記の地図）

